

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600046		
法人名	有限会社 彩寿		
事業所名	グループホーム 彩寿		
所在地	苫小牧市桜木町2丁目2-20		
自己評価作成日	平成24年8月15日	評価結果市町村受理日	平成24年9月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600046-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく、家庭的な雰囲気、入居者様とスタッフの会話も多く笑顔のたえないホームです。家という部分を大切に、共に喜んだり時には、共に悲しんだりホームがひとつの家族のような関係作りを目指しています。医療機関や訪問看護と連携し、日々の健康管理や看取り介護にも積極的に取り組んでいます。地域とのつながりも大切にしながら、入居者様が安心して過ごせるよう、またご家族様にも安心・信頼していただける様なホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム彩寿」は、苫小牧市の閑静な住宅地の一角に位置し、近くには公園などもあり、豊かな自然環境の中で穏やかな日々を過ごす事が出来るグループホームである。代表者は、町内会の会議を通して地域とのつながりを少しずつ深め、運営推進会議や、前回の課題であった避難訓練にも町内会代表が参加している。昨年初めて開催した事業所の運動会には、地域住民が見学に来ている。また、事業所行事などを通して、ボランティアや近くの学童保育の小学生や幼稚園児が来訪して歌を披露するなど、地域の子供達との交流も活発に行われている。代表者は職員の育成にも力を注ぎ、経験に応じた外部研修への参加や市の緊急雇用制度による職員の採用なども積極的に行っている。日々の清掃と共に、家族会と協力しながら、大掃除や花壇整備などグループホームの環境整備にも力を入れている。家族会の開催時には、映画会も行われ、日頃の利用者の様子が家族に伝えられている。理念に掲げるように、個々の利用者に応じた外出支援や外部のサークル活動参加など、一人ひとりが明るくその人らしい豊かな生活が出来るように温かな支援を行っているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(1階アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の目の届く場所へ理念を張り、スタッフが日常的に理念に触れる環境になっている。自由な暮らしのお手伝いをしている。	法人共通の基本理念に、地域と共に歩むホームを目指すという地域密着型サービスの意義を踏まえた項目が含まれており、対応などで迷った時には理念に立ちかえり再確認している。現在、職員と共に事業所独自のケア理念作成に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は、ホームの行事と重なるなどで地域の行事に参加できなかった。今後の課題となっている。	昨年度は、町内会の盆踊りに参加したり、事業所の行事に幼稚園児や学童保育、ボランティアなどが来訪して交流している。昨年初めて開催した事業所の運動会には、地域住民が見学に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して、地域の人々に協力・支援を求め理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、入居状況、スタッフ状況等を議題にし、意見交換を行っている。	運営推進会議は、行事報告を含めた事業所の近況報告を中心に、災害対策や外部評価結果報告、高齢者虐待などを議題に2か月毎に開催している。家族への開催案内や議事録の送付は現在行われておらず、家族の参加も少ないため、今後の課題となっている。	運営推進会議のテーマを事前に設定して、家族に開催案内や議事録を送付する事で、会議に対する理解を更に深めてもらい、参加できない家族の意見も会議に活かされるように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、研修等を通し連携を図り、協力関係を築いている。	代表者や管理者は、書類提出や市の緊急雇用制度による職員採用に關した相談などで市役所を訪問する機会も多く、常に相談できる関係が出来ている。市役所訪問時や運営推進会議時に、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティング等を利用し拘束への理解を深めている。また、研修に参加するなど、勉強の場を設けている。	事業所として、禁止の対象となる具体的な行為を含むマニュアルを独自に整備している。外部研修報告時に事例検討を行い、全職員で学びを深めている。言葉による拘束についても意識し、職員間で注意している。玄関は夜間のみ施錠し、安全面に配慮しながら自由に外出できるように見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を通し、虐待防止への理解を深めている。また、虐待が見過ごされることがない様、スタッフ間での声かけにも努めている。		

グループホーム 彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加を通し、話し合う機会を作っている。成年後見制度についての勉強会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問を解消できる様、十分な説明を行い、理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、意見・要望を聞いたり、面会簿に記入していただける様取り組んでいる。	家族の来訪時に、利用者の様子を具体的に話し、会話の中から家族の意見や要望をくみ取るように努めている。単票式の面会簿に意見欄を設けるなど、家族の意見を積極的に聞き、運営やケアに活かすように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は、随時行っている。年1回の個別面談も行い、実行可能な意見・要望については、反映させている。	各職員は、毎月のミーティングや日々の申し送り時に、自分の意見や提案を積極的に発言している。職員からの提案で、備品の整備や改善が行われる事もある。各行事は、担当の職員が中心になって実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心が持てる様、資格習得の為の休暇や手当等の制度を設け、個々の努力、実績、勤務状況等を把握し待遇改善、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での研修の他に外部の研修にも積極的に参加できる様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に、研修会の場を通して同業者との交流ができる様取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを心がけ、困っていることや不安に思っていることに耳を傾け、安心して生活が送れる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の段階で、困っていること、不安に思っていることを把握できる様関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の状態を良く観察し、その人に合った支援ができる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族という思いの中で、共に生活をするという関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とのコミュニケーションを大切にし、情報を共有し、共に支えるという関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の状態に合わせて、支援に努めている。	友人や幼なじみが来訪する利用者もあり、お茶などを出してゆっくり過ごせるように配慮している。外部のサークル活動に参加したり、居室の電話や携帯電話などで友人と連絡を取り、交流を継続している利用者もいる。馴染みのお店に、職員と一緒に買い物に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、一人一人が孤立しない様支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当ケースはないが、必要があれば、相談支援に努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者様の話しに耳を傾け、希望や意向の把握に努めている。	利用開始時に、家族などから生活歴や趣味などの情報を得て記録している。会話で意思疎通ができる利用者も多く、日々の会話の中から思いや意向を把握して職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービス状況やご家族様の話しを通して、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分の目で確認、スタッフ間での情報の共有などから現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の意見、要望を取り入れながら現状に合った介護計画を作成する様努めている。また、適切なケアが来ているか、モニタリングも行っている。	新規利用者の介護計画は、1か月で見直しを行っている。更新計画は、本人の意向や家族の来訪時に要望などを聞き取り、毎月のモニタリングを基に、3か月毎に全職員でカンファレンスを行い作成している。	新しく得られた情報を記録して蓄積すると共に、介護計画と日々の介護記録が連動するような記録の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記入し、スタッフ間での情報共有や介護計画に作成、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対応できる様、スタッフ間で情報の共有、話し合いの場を設けるなどして取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用し、豊かな暮らしを楽しむことが出来る様支援している。1名の方が、地域資源を利用し、サークル活動に参加されている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約医療機関での、月1~2回の往診の他に本人、ご家族様の希望する医療機関への受診の支援を行っている。	かかりつけ医の継続は可能であり、希望に応じて職員が受診支援を行っている。家族が同行して定期受診する時は口頭で体調を報告し、大きな変化がある時は職員も同行して医師に詳しく状況報告を行って、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との契約をしていて定期的な情報交換の他に、その都度連絡が可能な体制になっている。特変時など24時間対応。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、早い段階での情報交換や相談が出来る様医療関係者との関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で、看取り介護についての説明を行っていて、必要と判断した場合は、ご家族様、主治医、訪問看護師と連携しながら支援に取り組んでいる。	利用開始時に、重度化や看取りに関しての対応指針を説明し、署名捺印をもらっている。体調変化に応じて家族や医師と対応を話し合い、希望に応じて「看取り介護サービス提供依頼書」を作成し、看取りを行っている。現在まで1名の看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1度、救命救急講習を受講しているが、実践力はまだ身に付いていないと思う。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、地域の方にも参加していただいている。	消防署の協力の下、年間2回昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。夜間想定避難訓練は、地域住民や家族も数人参加して行われている。職員の救急救命訓練は定期的実施しているが、備蓄品の整備や火災以外の災害対策は今後の課題となっている。	現状に合った災害マニュアルを作成し、災害備蓄品の整備を進める意向なので、その取組みに期待したい。また、火災以外の災害に対する対応についても、職員間で再確認する機会が待たれるように期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけをする時には、言葉使いに気をつけ、その場の状況に合わせた対応をしている。	言葉遣いで気になった時は、朝の申し送り時に職員間で注意をし合っている。トイレ内で他の職員のサポートが必要となった時は、ナースコールを使いプライバシー等に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にし、本人の思いや希望を表現できる様、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、一人一人のペースに添った支援ができる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせた支援を、行っている。		

グループホーム 彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに、出来ることをお手伝いしていただき、食事は会話を楽しみながらできる様取り組んでいる。	献立と食材は外注であるが、行事に合わせて変更したり、利用者の希望を取り入れた事業所独自のメニューも提供している。外食の他、握り寿司をしたり、好きなものを出前で注文して食事に変化を付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握し、力、習慣に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・就寝時や毎食後に、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけをするなどの支援を行っている。	介護記録に排泄状況をチェックして、アセスメントを行っている。布パンツのみや誘導が不必要な自立度の高い利用者が多い。就寝時には、おむつを使用している利用者が若干いるが、日中は全員トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食品等に注意し、それぞれに合った支援を行っている。場合によっては、医療機関に相談し内服で調整することもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に注意しながら、入浴を楽しんでいただける様支援している。	両ユニットとも其々に入浴の時間設定はあるが、自立度が高い利用者は、午前中に一人で入っている。足浴やシャワー浴、清拭を適宜支援し、清潔保持に努めている。入浴は無理強いせず、拒む場合は翌日にずらしたり、入る順番などに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方にも配慮し、夜は気持ち良く休める様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	バイタルチェックを行い、体調の変化等の把握に努めている。また、服薬の必要性などについても理解する様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を見つけたり、買い物や食事など外出の機会を設けたり、生活にメリハリをつけ一人ひとりが楽しく過ごせる様支援している。		

グループホーム 彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力も得ながら、外出出来る様支援している。	同系列のグループホームと合同でコテージを使用したデイキャンプや釣り堀、千歳空港内の散策、艦船を眺めに行ったり、希望を募りながら利用者に楽しんでもらえる外出支援に力を注いでいる。天候に応じて、周辺の住宅街を散歩したり、冬場もショッピングセンターなどへ買い物に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から、希望があった時など、一緒に買い物に行くなどし、お金を使う支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりはないが、本人から希望があった時は電話での支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感をもう少し、採り入れていく事が出来る様、努力していきたい。	全体的に家庭的な雰囲気を醸し出し、身体機能に配慮した造りの共用空間である。玄関に季節の花を植えたプランターを置き、スロープを設置している。トイレ、洗面台も車椅子対応型で、床の段差を極力解消している。階段には楽しさや趣のある装飾が施され、明るく開放的である。リビングダイニングは、居室に取り囲まれた造りで、利用者同士の距離感にも対応できる設えである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で好きなテレビを見たり、入居者さま同士おしゃべりしたり、思い思いに過ごせる様、取り組んでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内で馴染みの家具を使用するなど、落ち着いた居室空間を作れる様工夫している。	居室ドアを解放しても、リビングダイニングから中が見えないように出入り口にのれんをかけている。以前の住まいから持ち込んだ沢山の鉢植えの手入れを室内で楽しんだり、来客と一緒にゆっくりと過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来ることはしてもらい、出来ないこと、わからないことは支援し、安全に自立した生活が送れる様に取り組んでいる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600046		
法人名	有限会社 彩寿		
事業所名	グループホーム 彩寿		
所在地	苫小牧市桜木町2丁目2-20		
自己評価作成日	平成24年8月15日	評価結果市町村受理日	平成24年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600046-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年8月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げているが、共有、実践にはまだまだ不十分である。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流には至っていない。また、ホームの行事と重なり、町内会行事の参加もできなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域の人たちに協力・支援を求め理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、入居状況、スタッフ状況等を議題にし、意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、研修等を通し情報交換や意見交換を行い連携し、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、内部研修等に積極的に参加し、身体拘束をしないケアの理解に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を通して、虐待防止への理解を深めると共に、虐待が見過ごされることがない様、スタッフ間での情報の共有等に勤めている。		

グループホーム 彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加を通し、理解と深めている。今後、成年後見制度の勉強会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問を解消できる様、十分な説明を行い、理解。納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、意見・要望を聞いたり、面会簿に記入していただける様取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。年1回の個別面談も行い、実行可能な意見・要望については、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心がもてるよう、資格習得の為の休暇や手当等の制度を設け、個々の努力、実績、勤務状況等を把握し待遇改善、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでの研修の他に、外部の研修にも積極的に参加できる様、努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に、研修会の場を通して同業者との交流ができる様取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に、要望等を収集しつつ、必要な情報を元に、本人の安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に、要望等を収集しつつ、必要な情報を元に、ご家族の安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況をよく観察し、必要としていることは何かを見極め、支援できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	外出をしたり、食事場面でのお手伝いだったり、同じ時間を過ごしながら、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの行事や、家族会主催の行事を通し、本人とご家族の絆を大切にしながら、共に支えるという関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の状況に合わせて支援しているが、一部の入居者様にしか、できていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゲームや生け花等、何かを一緒にやるということを通して、入居者様同士が関わり合い、支え合える様な支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の声に耳を傾け、思いや希望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネや、ご家族様からの情報を通して、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりや、スタッフ間で情報を共有することで、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の意見・要望を取り入れながら、現状に合った介護計画を作成する様に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を、個別に記録しながら情報の共有に努め適切なケアができているか、モニタリングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対応出来る様、その都度話し合いをしながら、柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用しての支援は行っているが、まだ不十分な点もあると思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約医療機関での、月1回～2回の往診の他に本人やご家族の希望する医療機関への受診の支援を行っている。		

グループホーム 彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をしていて、定期的な訪問や日々の情報交換をしながら、適切な看護が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関と連絡を密にし、情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取り介護についての説明を行っていて、必要に応じて、ご家族様、主治医、訪問看護師と連携しながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1度、救命救急の講習を受講しながら、実践力を身に付けていける様、取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、地域の方にも参加していただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや、声かけのタイミングや声の大きさ等に気をつけ、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話、関わりを大切に、思いや希望を表現しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に添った支援に努めているが、不十分な点もあると思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれに、合わせた支援を行っている。		

グループホーム 彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを、お手伝いしていただき一緒に行う場面もあるが、限られた人になっている。食事は、会話をしながら、楽しみながら出来る様取り組んでいる。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や習慣に合わせた、支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態等を把握し、本人に合わせた口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食品、内服等で個々に応じた予防に取り組んでいる。運動への働きかけは、うまく出来ていない。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に添った、入浴支援を行っているが、中には、曜日を決めて、リズムを付けて入浴をし清潔が保たれている入居者様もいる。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況に応じて、休憩できる様支援している。夜は、安心して眠れる様支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に服薬できる様、服薬の必要性、用量、副作用などを理解する様努めている。また、症状の変化には注意している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや喜びのある生活が出来る様、時には気分転換できるよう、買い物や外食などの機会を設けている。メリハリのある生活が送れるよう支援している。			

グループホーム 彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力も得ながら、外出できる様支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から希望があった時など、一緒に買い物に行き、お金を使える支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった時は、電話をかけたり、取次ぎなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	移動時など危険がない様、家具の配置などに配慮している。快適に過ごせるよう、温度に気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きなテレビを見たり、入居者様同士おしゃべりしたり、思い思いに過ごせる様、支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内で馴染みの家具を使用するなど、ご家族様と相談しながら、落ち着いた居室空間を作る様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分できることはしてもらい、出来ないことや分からないことは支援し、安全に自立した生活が送れる様に取り組んでいる。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 彩寿

作成日：平成 24年 9月 15日

市町村受理日：平成 24年 9月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議のテーマを事前に設定して、家族に開催案内や議事録を送付する事で、会議に対する理解を更に深めてもらい、参加できない家族の意見も会議に活かされるように期待したい。	議事録を家族に送付し、会議に対する理解を深めてもらう。出来る限り、事前にテーマを設定していきたい。	事前にテーマを設定し、議事録送付の時に家族に、お知らせできるように取り組んでいく。	即実施
2	26	新しく得られた情報を記録して蓄積すると共に、介護計画と日々の介護記録が連動するような記録の工夫を期待したい。	情報の蓄積と、介護計画と連動した記録書きの工夫をしていく。	入居者様の情報を整理する用紙を見直し、新たな情報を蓄積するよう取り組んでいく。個々の介護計画を把握しやすい様工夫し、介護記録に連動させていく。	1ヶ月
3	35	現状に合った災害マニュアルを作成し、災害備蓄品の整備を進める意向なので、その取り組みに期待したい。また、火災以外の災害に対する対応についても、職員間で再確認する機会が持たれるように期待したい。	火災以外の災害に対する対応について、職員間で再確認をしていく。	災害時の避難場所の確保、確認を行い、ミーティング等を通してスタッフ間で再確認をする。また、災害備蓄品の整備も進めていく。	3ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。